

竹の割り方に熱心に聞き入る「立教セカンドステ  
ージ大学」の受講生ら(高知市)



## 首都圏シニア 竹割りに汗

高知市の中山間地域の土佐山に首都圏などから50代以上のシニアの男女約10人が田舎暮らし体験に訪れた。「竹を割ったことがありますか。通常はナタだけを使いますが、今回は途中から割れ目に切った竹を入れていきます」。説



明役は地元で木工などに取り組む金光子さんだ。

「スムーズに割れるねえ」「曲がったかな」。全員が役割分担しながら、長さ2メートルほどの竹を次々と30センチほどの板状に加工することに熱中していった。板はものづくり工房の土壁の基礎として活用する

## 退職後も衰えぬ学びの意欲

計画。金さんは「ちゃんと説明も聞いてくれたし、きれいに仕上げてくれた」と話す。

作業を体験したのは立教大学が運営する「立教セカンドステージ大学」の受講生たち。企業の定年退職などの後も学び直し、多様な社会の担い手としてセカンドステージに踏み出すアクティブシニアを応援する。都会人らに田舎暮らしの良さを伝えるNPO法人土佐山アカデミー(高知市)が開催に協力した。

受講生は地域住民との懇親会や、アカデミーが企画しているシニア対象の体験ツアーへの意見交換も実施。アカデミーの吉富慎作事務局長は「経験に裏打ちされた貴重な意見が聞けた。事業に生かしていきたい」としている。